

文化部会



K S C 男声合唱団 創立 5 周年記念演奏会 2005 年 11 月 12 日(土)「うはらホール」

いつまでも若々しい歌声を

KSC 男声合唱団第 1 回演奏会

国6一文 黒田 宏

K S C 男声合唱団は団員の総意により、昨年 11 月 12 日、東灘区民センター「うはらホール」にて第 1 回演奏会を開催し、成功裡に終わることができました。多くの方、特にシルバーカレッジの皆様の激励とご支援の賜物と心から感謝しています。

創部当初は 7 名だった部員も現在は 40 数名という大所帯です。在校生と卒業生（グループわの会員）が男声による素晴らしいハーモニーをア・カペラで楽しんで参りました。そして年間 20 数回に亘り各種施設を訪問し、多くの方と一緒に男声の重厚な音色を分

合える喜びをかみしめているところです。

今回の演奏会では 5 つのステージの中、3 ステージを暗譜で演奏すると言う大胆な決意で臨むことになり、週 1 回の定期練習と臨時練習を行い、全員が必死で暗譜に取り組みました。平均年齢が 70 歳を超えたメンバーが暗譜でしかも全曲無伴奏の演奏とあって、団員にとっては極めてハードな演奏会になったと思

ますが、それでも脱落者はなく頑張ることができました。今回の演奏会を第一歩としてこれからも音楽を愛し、人との交流を大切に何時までも若々しく歌って行きたいと思っています。演奏会は「震災 10 年 神戸からの発信」事業に参画したもので、入場は無料としましたが、さきの震災で父親や母親をなくされた子供たちの支援に尽力されている「あしなが育英」への募金と呼ばかけましたところ、多くのご支援を賜りました。

来場頂いた大半の方がシルバーカレッジの在校生と卒業生であり、ここにご報告と御礼を申し上げます。



環境部会

シルバーカレッジに隣接する雑木林を 1999 年 4 月から里山として再生するため、ボランティア活動として整備作業が開始され今年で 8 年目を迎えることになります。当初 3 年間で約 13,000 m² を再生し、2002 年から毎年メンバーも増加し再生面積も大幅に拡大し 2004 年度末までで約 22,500 m² を再生することができました。

現在の里山にはベンチが設置され、樹木や草花に名札が取り付けられ高木には小鳥たちの巣箱も取り付けられています。また、再生された里山には四季折々に色とりどりの山野草が美しい花を咲かせ、自然のめぐみをいっぱい実らせてくれる素晴らしい環境に出来上

里山林整備の講習会に参加して ～チェーンソーの安全使用体験談～

生6・環 松本 義彦

がってきました。

ここでひとつの問題が生じてきました。それはこれだけ広がった里山の維持管理です。一方で再生作業は今後とも継続していきませんが、今まで整備してきたところのメンテナンスはどうしても人海戦術だけでは対応しきれなくなってきました。勿論メンバーの高齢化による作業量の低減もあります。これを解決するには一部動力機の使用が不可欠です。

たまたまそんな折、仲間から兵庫県が主催するチェーンソーの安全講習に参加を誘われ昨年 9 月から 12 月までの間、宿泊研修を含め 8 日間実地訓練を受けて

きました。実習場所は夢前町にある夢前の森公園内のヒノキ林で行われ、生まれて初めてスパイク付の地下足袋を履き頭にはヘルメット、腰にはノコギリや鉋をぶら下げ杉や檜の植林した急斜面を汗をかきながら這い登りいよいよチェーンソーの使用訓練開始です。

樹齢約 40 年、直径約 20cm、樹高約 20m の檜を 4,5 人が一つのグループになって指示する人、チェーンソーを使う人、ロープを引っ張る人とそれぞれ役目を順番に交代しながら伐倒していきます。いきなりチェーンソーを使わされ大変緊張しましたが何回かやるうちに多少自信がついてき

ましたが、なかなか教えられたマニュアルどおり伐倒作業をこなすことはできませんでした。しかし大きなヒノキを大音響とともに伐倒したときの爽快感は感動ものです。

参加された方々は県内各地で里山の保全活動をされておられる 60 歳代の方ばかりで里山の保全についても意見交換することができ大変有意義な講習会であったと思います。現在我々の里山ではチェーンソーを使う機会はあまりありませんが、今回の講習会で刈払機の訓練もあり、今後の活動（里山の下草刈り）におおいに役立つものと考えています。

今年もまた楽しい仲間と里山の再生に取り組んでいきたいと思っています。

